

いらんちゃフェスタ2015in丹後（続報1）

こんにちは。オール沖縄推薦の推薦で沖縄1区で当選した赤嶺です。念願の経ヶ岬の米軍基地を訪問し調査ができました。美しい自然の場所に米軍基地をつくっていることにグロテスクな違和感を覚えました。京都の皆さんと一緒にたたかう決意をあらたにしました。（拍手）

沖縄の負担軽減は一度もない

京都のみなさんと連帯をつよめるために、言っておきたいことがあります。市議会などで沖縄の負担軽減だから米軍基地を受け入れてくれと繰り返し発言していると聞きました。沖縄の人が一番腹立たしいのは、沖縄の負担軽減のために日本政府が実行に移したのはただの一度もないのに、本土では沖縄の負担軽減だから受け入れて当然だという。まるで沖縄県民の味方のような顔を、日本政府がふるまっていることでもあります。

今日の新聞にも出ていましたが、菅官房長官が、「沖縄の海兵隊9000人をグアムに移す」と。安倍内閣は辺野古に基地をつくるだけではない、きちんと県民の負担の軽減を考えているんだというスタンププレーをやっているんですが、それを翁長知事は「はなしぱっち」という言い方で冷たく突きはなしております。

「はなしぱっち」の「ぱっち」は「ごちそう」のこと。何度そういう目にあわされてきたかわからない。今度のグアムの話もそういうたぐいだ。まるで沖縄県民の味方のような顔をして、日本政府はふるまう。負担軽減論を吹き飛ばそうではありませんか。



講演する赤嶺政賢氏

辺野古「本体着工」のウソ

ここに来てもうひとつはっきりさせないといけないことがあります。いよいよ沖縄では辺野古新基地の本体工事に着工したと日本政府が速報で流しました。朝からNHKは、ごていねいにテロップで流しました。私たちは、事情を知っているから、なんだこれとは思いました。本体工事という名ではじめたのは、キャンプシュワブの陸上に瓦礫を詰めた袋がつまれていて、この瓦礫をクレーンが動く範囲で移動させる。場所をちょっと移動させた。翁長知事が埋め立て承認を取り消した結果、一部撤去をせざるをえなかった海上でのフロートとブイを再びやり直しました。これを政府は「海上工事をはじめた。本体工事を着工した」と。もう辺野古の新基地は止められないということを一日のうちに日本中に広めたわけです。今回の問題の本質は名護市長が言っていますが「本体工事なんかまだまだ始められるわけない」です。本体工事をはじめるとは、名護の漁港を機材ヤードとして使わなければならない、それには名護市の許可が必要。名護

10月31日、京丹后市網野町アミティ丹後で「いらんちゃフェスタ2015in丹後」が開かれました。前号の続報です。赤嶺政賢氏の講演（要旨）を中心に載せました。

市に防衛省から協議の要請が来ているらしいんですが、その後何の音沙汰もない。何で自分が許可もしてないのに本体工事がはじめられるのかと市長は言ったのです。河川の利用についても名護市の許可が必要なんです。その協議も何もやっていない。名護市は、本体着工はウソだと、こういう表現をいたしました。

2週間前に翁長知事が仲井眞前知事が承認した埋め立て承認を取り消したことに對し、政府は行政不服審査法を使いました。この法律は、国民が公権力から被害を受けた時に使われる法律であって、一体なんで政府が、国土交通省に訴えることができるのか。防衛省は「埋め立て承認を得るためにどれだけ苦勞をしてきたかわかりますか」というのです。（笑い）やっとなんか承認を取り消された。「国ではあるが、国民と同じことができる」とむちゃくちゃなことを言い出しました。こんな無謀な使い方を許してしまったら法治国家としての土台が壊れてしまう。安倍首相の手法とは法律などどうでもいい、独裁ではないかと。

全国と連帯したたかい強める

本体工事というが、まだまだ長い時間がかかります。いろんなハードルがあります。防衛省の担当者は、「工事はスケジュールよりはるかに遅れています」と。「何で遅れているの」と聞くと。「よく知ってるくせにそんなこと聞かんといて」と。（笑）海上の埋め立て土砂は、7割が県外から。外来生物の混入が心配されているが、それを全部とりのぞくというのです。どうやって取り除くのか？アルゼンチンアリの大好物はサトウキビで、これが入ればサトウキビは全滅する。一匹でもいれば認められな

いという条例をつくりました。まだ一粒も投げ込まれていません。こんな状況なのに本体工事着工と言って、知事の法に基づく行為に對し、法治主義を踏みにじる形で、工事を再開したことに問題があります。こんな政府のやり方は許せません。本体工事を絶対させない、連帯し、たたかいを大きくしたい。（拍手）

埋め立ては自然破壊がつきもの。政府は自然破壊はやむをえないが、できるだけ少なくすると書いています。海ガメについて、卵を産む浜があり産卵する。ここを埋め立てるということに、「海ガメをどうするのか」と。そうすると「産卵場所としては適当ではない」というんです。「海がめに聞いたのか」と。（笑い）政府は「かわりの場所を提供します」と。（笑い）

私たちには、勝てるだけの法的根拠ある。全部そういう類なんです。法廷闘争は、高等裁判から始まる。このたたかいを3つの方向で切り開いていきたい。

一つ目は、法廷闘争です。沖縄の人だけでなく、日本全体で、国民全体のたたかいの高揚の中で、がんばっていきたい。

二つ目は、辺野古のゲート前のたたかいを大規模にします。工事再開の時にも朝6時には200人が集まっていますが、それを毎日400人500人にしたい。

三つ目は、普天間基地のある宜野湾市の市長選挙が来年1月にある。今、残念ながら辺野古基地建設に反対しない、首相とお友達の人がやっています。伊波氏はオール沖縄で参議院にまわり、沖縄県庁で土木関係の管理職をしておられたシムラさんを市長候補に立てる。

連帯してともにがんばりましょう。（拍手）